

池田 觀纂
田 述

修身小學讀本

中等科第五級
卷八

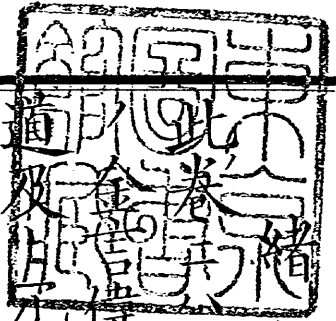
K1101
7a
8

明治十五年七月再版

從四位福羽美靜閑 三尾重定刪定
東崖堂師範學館
那珂通世校正 池田觀纂述

修身小學讀本

版權所有 東崖堂刊行



言

德行謙德善行等ノ品目ヲ舉テ古今
道及ル元費ヲ省キ節儉ヲ守リ徒ラニ危險
ヲ侵シテ身體ヲ毀損スベカラザル等ノ事ヲ
申明シ中等學科第五級生ノ用ニ供セント
ス

修身小學讀本

卷八

端言

脩身小學讀本卷之八

福羽美静 閱 三尾重定 刪定

那珂通世 校正 池田 觀纂 述

第七章 德行

人ノ一世ヲ風靡シテ。崇敬ヲ受ルモノ。德行ニ在テ。地位ニアラス。地位高シト雖。不徳ナルノ人。何ゾ能ク茲ニ達セン。

德行ハ猶香艸ノ如シ。壓搾ヲ歷ル毎ニ。必其ノ芳香ヲ増ス。

修身小學讀本 卷八
人ノ世ニ處スル地位ノ何タルヲ論ゼズ。性
行端正ナル時ハ。蓋世ノ規鑑トナリ。人ヲシ
テ已レニ歸セシム。亞テ義氣卓絶ナル人。志
向純一ニシテ。老實ナル人。識見ヲ具シ。且鴻
業ヲ極ムル人ハ。皆該世ヲ裨益シテ。人ニ敬
礼セラル、ナリ。此等ノ人ヲ信憑シ。是ニ委
托シ。是ニ摸倣スルハ。天下ノ好事。蓋此ノユ
ト微リセハ。必卑陋ノ極ニ陥リ。蠻野ノ非リ
ヲ免ガレズ。

才藝ト品行トハ。共二人ノ嘉尚スル處。品行
尤其ノ高地ヲトセリ。蓋才藝ハ。頭腦力ヨリ
發シ。品行ハ。赤心カヨリ生ズル處ノ結果ナ
リ。人生ハ譬ハ猶長キ旅程ヲ行クガ如シ。旅
程ニハ山嶽ノ險アリ。河海ノ難アリ。然レド
モ橋梁舟車ノ便アリテ能クソ。險難ヲ
救済ス。人身ニハ赤心アリ。義膽アリテ。又能
ク之ヲ管治セリ。蓋才藝ハ聰明ノ部内ニ屬
シ。品行ハ良心ノ中樞ニ位セリ。而シテ一ハ

社會一其ノ巧妙ノ賞賛ヲ得。一ハ世上ニ其ノ端正ヲ尚慕セラル、ニ至ルナリ。

言行ノ誠實直諒ナルハ。一般勤務ニ任スル者ノ基礎タリ。就中商賈及ヒ工藝者ノ誠實直諒ニ於ルハ。猶兵士ノ氣節。緇徒ノ慈悲ニ於ルガ如ク。須臾モ離ルベカラザル者ナリ。端正信實ナル人ハ。詐謀詭計ヲ行ヒテ。浮雲ノ富貴ヲ致スガ如ク。急劇ニ之ヲ成スヲ得ザル也。然リト雖。發達亨通スルニ方ツテハ。

真正ニシテ且鞏固ナリ。故ニ人或ハ困蹶失敗スルモ。務メテ其ノ品行ヲ壞ルコト勿シ。蓋品行ノ端正信實ナルハ。特種ノ財寶ニシテ。金銀ヨリモ尚重シ。故ニ人苟モ毅然トシテ之ヲ守ラハ。福運ノ至ルコト。敢テ疑フ容ルベカラズ。

我朝文學ヲ以テ。稱セラレシ人多シト雖。特ニ其學民間ニ達シテ。牛豎馬丁ニ至ルマテ學問ノ缺クベカラザルヲ覺リ。勉メテ其

ノ身ニ行フニ至ラシメタル者。近クハ中江
藤樹ヲ以テ魁トスベシ。藤樹ハ近江ノ人。通
稱ヲ與右衛門トイヘリ。温良恭謙ニシテ。近
江聖人ト呼バレシ程ノ大徳ナリ。サレバ其
ノ徳ヲ以テ。人ヲ感泣セシムルノ話多キカ
中ニ伊豫侯ニ奉仕シテ。大洲ニアリシトキ。
母ノ古郷ニアルヲ慕ヒ。官ニ請テ歸省ヲナ
シ。伴ヒ往ントセラレシニ。其母遠ク波濤ヲ
踰テ。他郷ニ適クノ心ナケレハ。力及バズ大

洲ニ歸リ。母ヲ養ヒタキ旨ヲ陳ベテ。暇ヲ請
ヒシニ。國侯藤樹ノ賢徳ヲ惜ミテ。聽シ給ハ
ズ。是ニ於テ家財ヲ典賣シテ。舊債ヲ濟シ。又
米ヲ買テ家ニ積ミ。天ヲ仰テ。再他姓ニ仕ヘ
ザルコトヲ誓ヒ。潜カニ古郷ヘ脱還セリ。彼
ノ米ヲ殘セシモノハ。其ノ歳ノ俸給ヲ還納
スルノ意ナリトゾ。
然ルニ伊豫侯藤樹ノ脱走セシヲキ。且愠
リ且惜ミ。將ニスルヲアラントセラレシガ。

固ヨリ孝義ノ精衷ヨリ出タルナレバ。再召
ストモ。来ルマジキヲ察シ玉ヒ。又敢テコレ
ヲ咎ノズ。其ノ儘ニゾ寘レケル。而ルニ藤樹
ノ賢名。遠近ニ隱レナケレバ。諸侯争ツテ其
徳ヲ慕ヒ。禮ヲ厚ウシテ招カル、ト雖固辭
シテ之ニ應ゼズ。專ラ郷民ヲ訓誘スルヲ任
トセリ。サレバ老幼賢愚ヲ問ハズ。皆其ノ徳
ニ服從シ。善ヲ為サズトイフコトナシ。

藤樹一日他行ヲナシ。夜ニ入テ郊外ヲ還リ

ケルニ。數人ノ強賊途ヲ遮リテ。酒錢ヲ乞フ
藤樹懷中ヨリ。錢二百文ヲ出シテ與ヘケレ
バ。賊大ニ怒リ。劔ヲ拔テ叱テ曰ク。汝何ゾ吾
ヲ玩弄スルヤ。速ニ衣服及佩刀ヲ授ケヨ。否
サレバ多言ヲ須タズトテ。既ニ衣類ヲ剥ギ
取ラントス。然ルニ藤樹自若トシテ。賊ニ向
ヒ暫クマテ。吾レコレヲ考ヘミントテ。手ヲ
又キ。少須アリテ云ヒケルハ。情此舉ヲ思ヒ
ミルニ。縱令戰鬥シテ死ニ至ルモ。空ク汝等

ニ與フルノ理ナシトテ。刀ヲ撫シテ又云ヤ
ウ。凡テ刃傷ニ及ブ者ハ。必先姓名ヲ告ルヲ
以テ礼トセリ。我ハ近江ノ人中江與右衛門
トイフ者ナリト。賊等之ヲ聞テ大ニ愕キ。拜
謝シテ曰ク。吾郷三尺ノ童子トイヘドモ藤
樹先生ノ聖人タルヲ知ル。我等カ、ル業ヲ
為スモ。何ゾ先生ニ及ボスコトヲ得ンヤ。是
知ラザルノ罪ナレバ。許シ玉ヘトテ。又余儀
モナク見エシカバ。人誰カ過チナカラシ。改

ルヲ以テ善ト為ストテ。知行合一ノ理ヲ論
シケレバ。賊ミナ感泣。黨ヲ率井テ來リ。悉ク
良民トナルト云ヘリスノ如ク皆其德ニ薰
陶シテ。商賈ト雖利ヲ得テハ義ヲ思ヒ。旅舍
及諸肆店マテ。若客ノ遺物アレバ。必是ヲ閣
上ニ掲ケテ。其ノ人ヲ俟チ。途上鹿賤ノ遺品
タリトモ。必之ヲ採ラザルニ至リシト云。
後ニ或人藤樹ノ古里ヲ過ギ。其ノ墳墓ヲ觀
ンコトヲ思ヒテ。傍ナル農夫ニ問フニ。其者

耒耜ヲ舍テ屋ニ入。農衣ヲ更メテ羽織ヲ着ケ。誘導シテ墓所ニ至リ。邊リヲ清メテ教フルサマ。誠ニ恭謹ナリシカバ。其ノ人恠テ。汝ハ藤樹ニ如何ナル縁アリテ。カク恭禮ヲハ做シケルゾト問ヒシニ。農夫對ヘテ。僕何モ縁故ナシ。然レドモ先生ヲ欽仰スルコト。貴賤ヲ問ハズ。皆爾リ。父老常ニ語リケルハ。吾ガ里。父子兄弟僉礼アリテ。家ニ忿怨争撃ノ弊ナキハ。皆先生ノ遺教ニ由レリト。サレバ

老幼男女ヲ問ハズ。悉ク恩惠ヲ被ルヲ以テ。敬事スルコト斯ノ如シト答ヘケレハ。其ノ人大ニ賞シ。世ニ近江聖人ノ稱アルコト。虚構ニハ非ザルナリトテ。厚ク農夫ニ謝シタリトカヤ。

藤樹同郷ノ人。江戸ニ來リテ。某家ヲ嗣ゲリ。一日客アリテ。其話偶儒ニ至レリ。客主人ニ問ヒケルハ。中江藤樹ハ子ノ里人ナリ。其ノ徳常儒ノ比ニアラザルヲ聞ケリ。子ハ能ク

仔細ヲ知ラルベシ。請フ我^ガ為ニ語ラレヨト
有ケレバ。主人容ヲ改メテ。藤樹先生ハ。吾ガ
先人ノ師事スル處。因テ其ノ平生ヲ詳知セ
リ。實ニ近江聖人ノ名ニ乖カサル也。吾レ此
家ヲ繼グニ及テ。先人常ニ愛敬スル所ノ先
生ノ墨蹟一張ヲ授ケ。且戒メテ曰ク。此ハ是
聖人ノ手澤ナリ。汝ヨク之ヲ藏メ。知ラザル
者ヲシテ。汚サシムルナカレト。故ニ妄リニ
人ニ示サ、ル物ナレドモ。今吾子先生ヲ慕

フコト浅カラス。因テコレヲ觀ルコトヲ得
セシムベシトテ。禮服ヲ着シ。一軸ヲ櫃中ヨ
リ出シ。恭シク案頭ニ置キ。頂禮跪拜スルコ
ト。猶緇徒ノ佛像ニ於ルガ如シ。是ニ於テ客
始テ敬心ヲ發シ。且以為ク。藤樹ハ畝ノ一
匹夫。而ルヲ士大夫ノ間ニ重ンゼラル、コ
ト斯ノ如シ。其ノ道德タル實ニ世儒ノ比ニ
アラス。我豈礼セザルヲ得ンヤトテ。盥嗽再
拜シテ。展覽セシトイフ。

第八卷 言本 卷八
第八章 謙德

害ヲ我ニ加ハフル者アルモ。宜ク之ヲ宥恕シテ。悔悟ノ念ヲ發サシムベシ。人ノ我ヲ仇視スルハ。必當ニ故アルベケレバ。深ク我が身ヲ省ミテ。之ニ報ルニ善ヲ以テシ。頡頏抗拒スル勿レ。君子ハ原報讎ノ心ナシ。只善以之ヲ導キ。惡人ヲシテ。自然ニ慙愧悔過ナラシム。國ニハ必政府アリ。且法律ノ照ス有テ。能ク

惡人ヲ懲罰シ。能ク善人ヲ保安ス。何ゾ惡人ヲ仇讎視スルニ及バンヤ。人ノ性ハ本善ナリ。唯外物ノ蔭蔽スル處トナリテ。其ノ天性ヲ過ルノミ。サレバ一タビ精神ニ感動スルアルニ至ラバ。能ク之ヲ痛悔シテ。善トナル。是性ノ善タル所以ナリ。

第九章 善行

德ヲ積ミ行ヲ省ミテ。而シテ其ノ善タルヲ知ラザル者ハ。時アツテ興リ。義ヲ棄テ理ニ

背キ。而シテ其ノ惡タルヲ知ラザル者ハ。時
アツテ亡ブモノナリ。
能ク其ノ身ヲ愛スルモノハ。畢生間千歳不
滅ノ徳果ヲ布ク。自ラ其ノ身ヲ愛セザルモ
ノハ。僥倖ニシテ盛時ニ遇フモ。巨費ヲ察セ
ズシテ。眼前一己ノ快樂ニ供スルノミ。
人ヲ愍ミ人ヲ濟フハ。人間ノ本義ナリ。然レ
ドモ徳量廣キニ非ザレバ。是ヲヨク為スコ
ト能ハズ。

遠江國。佐野郡倉真村ニ。岡田某俗稱佐平治トイ
フ人アリ。天資温厚篤實ニシテ。其家固ヨリ
富裕ナリト雖。常ニ業ヲ勵ミ。儉ヲ守リ。救恤
ヲ以テ已レガ任トス。故ニ其澤ヲ被ル者。殆
數村ニ及ビケリ。特ニ本村ノ如キハ。徳化洽
ク行ハレテ。一村ノ協和一家ノ如ク。風俗最
純美ニシテ。山腹溪間ニ至ルマデ。開懇シテ
餘スナク。道路ヲ補ヒ。橋梁ヲ修メ。專意ヲ公
事ニ竭セシコト。一ニシテ足ルベカラズ。安

政元年二至テ。貧民救助ノ資本トシテ。年々米五拾俵ヲ。獻納スベキ旨ヲ願ヒイテ。其田ヲ稱シテ。報徳田トシ。過ル壬申ノ年ニ至ツテ。既二十九年。納米怠ルナシ。是ニ於テ。維新ノ際。右ノ餘金千五百。貳拾三圓。八拾八錢ヲ領主ヨリ。新縣ヘ引キ渡シニナリタリト云。又報國會ト稱シ。村落ニ議場ヲ開キ。米麥菜蔬ノ培養ヨリ。地質ノ能惡ニ至ルマテ。互ニ發明セシトコロヲ討論シ。衆議ニ付シテ

可決ヲトリ。愈完良ノ證ヲ得テ。然シテ後ニ施行セリ。其ノ人ヲ賑救シ。世ヲ裨益スルノ善行アル斯ノコトシ。初ノ岡田氏イマダ幼穉ナリシトキ。人遠キ慮ナケレバ。必近キ憂アリトイヘル語ヲ母ヨリ聽テ。常ニ暗誦シタリシガ。長ズルニ及テ。易經ヲ讀ミ。君子ハ安而危ヲ忘レズトイフニ至リ。益前キノ語意ヲ悟リ。夫ヨリコノカタ。用ヲ節シテ不虞ニ備ヘ。黽勉刻苦。竟ニ今日ノ富裕ヲ致セリ

トゾ。是全ク母ノ賜ナリトテ。其語ヲ記シテ
備忘ト為シ。六十餘歳ニ至ルマテ。肌膚ヲ離
サズ。遵奉シ。造次ニモ之ヲ念ヒ。顛沛ニモ之
ヲ稱シ。怠ラザルハ。實ニ至仁至孝ト謂フベ
シ。故ニ官コレヲ賞シテ。厚キ恩賜アリシト
ゾ。

玄俊ハ。近江國高島郡朽木宮前村ノ人ナリ。
京師ニ出テ。山本永吉ノ門ニ入テ。醫ヲ學ビ。
業成テ。豊後ノ府内ニ下リテ。開業セリ。質性

淳朴廉直ニシテ。節儉ヲ尚ビ。人ニ交ルニ信
義ヲ先キトス。一日妻外へ出ントテ。絹衣ヲ
着タルヲミテ。我レ着用ノ衣服ニハ内外ヲ
問ハズ。木綿ヲ以テ常服トス。サレハ汝モ綿
服ニ改ムベシ。縱令舊來コレヲ持スルモ。故
ラニ之ヲ用フルハ。却ツテ人ノ哂笑ヲ受ク
ベシトテ。遂ニ其ノ衣ヲ改メサセタリトゾ。
今ニ至テ里入。其質素ナルヲ稱賛セリ。斯ル
天性ナルヲ以テ。富貴ノ人ニ對フト雖。敢テ

諂フ色ナケレバ。醫業ヲ廣ク行ハレズ。隨ツ
テ家道モ豊裕ナラザレ共。又コレヲ事トモ
セズ。常ニ鰥寡孤獨ヲ憫ミ。廢病痼疾ノ者ヲ
見テハ。務メテ是ニ治ヲ施シ。藥ヲ與ヘテ。懇
切ヲ盡スノ状。所謂仁術タルノ名ニ背カス。
加旃明治己巳ノ歲。天下凶荒ニシテ。米價頗
高ク。庶民飢餓ニ及バントセシヲ。中尾喜兵
衛トイフ者ニ謀リ。自ラ居家ヲ典物トシ。其
ノ急ヲ救ハンコトヲ計リシニ。喜兵衛深ク

其ノ舉ヲ嘉シ。玄俊ニカヲソヘ。有志ノ者ヲ
募リ。出金ヲ勸メシニ。五千余圓ノ大金ヲ得
タリ。是ヲ以テ市中近郷已ニ餓セントスル
ノ衆人ヲ救助セリ。是玄俊力至誠ニ感動シ
テ。奮起シタルニ外ナラス。後又明治庚午ノ
歲閏十月。府内寺町ヨリ出火折フシ。西風猛
烈ニシテ。忽數百家ヲ延焼ス。此所ハ窮民多
ク住ノル町ニテ。過ル己巳凶歲ノ後。諸品高
騰ニ際シ。營業ノ籌策モナク。皆焼跡ニ露宿

シテ艱苦ヲ嘗ルヲ憐ミテ。玄俊マタ同志ヲ
募リ。二千五百金ヲ得テ。築造ノ基本トナス。
是マデハ皆葺屋ノミナリシヲ。瓦葺ニ改メ
テ。百餘軒ヲ新築シ。類焼者ニ與ヘシハ。又玄
俊ノ至仁至慈ノ恩澤ナリトテ。皆感泣シテ
謝シタリトゾ。カ、ル仁徳ノ著名ナルヲ賞
シ。藩ヨリ口米ノ榮賜アリ。其後復古王政ノ
化ニ浴シ。民費ヲ以テ學校ヲ創設セシモ。マ
タ與ツテカルアリテ。夙ニ 朝廷ノ御趣旨

ヲ戴認シ。終始渝ラザル。舉動ヲ褒賞アリテ。
金千匹ヲ賜ハリタリ。
茲ニマタ。相摸國。足柄郡。八澤村ニ。副戸長ヲ
勤メタル。小宮某トイフ人アリ。稟性温厚ニ
シテ。務メテ慈善ヲ施セシニヨリテ。一村ノ
者。其ノ徳ニ懷キ。父母ノ如クニ親睦セリ。而
ルニ官地券ヲ。改メ行ハセ給フニ方ツテ。嘗
テ質ニ取置キタル。千六百有餘圓ノ田畠ノ
地主ヲ招キ。今般公布セラレタル。地券ノ義

ハ數百年來錯雜セシ田園ヲ改正シテ。本人
所有ノ確證ヲ舉ゲ。永ク各家ニ附與センノ
給ハントテノ御主意ナリ。然ルニ素ヨリ。他
人ノ田畠ヲ流質セシトテ。之ヲ引受ケ。我が
所有トナサンコト。本意ニアラス。故ニ典物
トシテ。預リ置キタル証券ヲハ。皆返シ參ラ
ス程ニ。各地券ヲ官廳ヨリ。拜受スベシト云
ヒ渡シ。其ノ中金五百餘圓ノ地主共ハ。極ノ
タル窮乏者ナルヲ以テ。無代價ニシテ返還

シ。金千九拾餘圓ノ質主等ハ。貪ハ則貪ナレ
ドモ。前者ニ比スレバ。差資カアリ。然ルヲ同
シク返與セハ。公平ナラザルノミナラス。却
ツテ本人ノ怠惰ヲ起シ。又窮乏ニモナリナ
ントテ。永預ト稱シテ。與ヘタリトゾ。是ニ於
テ。近村遠郷。舉ツテ其ノ仁計ヲ贊賞シ。感セ
ヌ者ハナカリケリトゾ。抑地券發行ヨリ以
還。質地處分ノ件ニ互ツテ。民間或ハ苦情ヲ
提シ。鎮靜ナラザル村落モ。有シカ如ク聞キ

ツルニ。小宮氏一己ノ仁恕ヨリ。諸人ノ獎勵
トナルノ之ナラス。諸人ヲシテ朝政ノアリ
難キヲ感徹セシメタルハ。洵ニ無邊ノ大功
トイフベシ。

第十章 接從僕

人ニ貴賤貧富ノ別アルハ。槩ネ才徳ノ高低
ト儉奢ノ勤惰トニ因ルナリト雖。或ハ不幸ニ
シテ。不虞ノ災厄ニ罹リ。貧賤ニ陥リ。テ人ノ救
濟ニ縁リ。一時ノ窮ヲ凌ク者。亦鮮シト為ス。

可ラス。故ニ我ト富貴ナリトテ。慢リニ驕。大自
負ノ心ヲ挾ミ。屬隸僕婢ノ輩ニ遇スルニ殘
忍苛酷ヲ以テスベカラス。陶淵明嘗彭澤
ノ令タリシトキ。一僕ヲ其子ニ附シ。且戒メ
テ曰ク。汝旦夕ノ費ヘ。自ラ給スルト難シ
ナス。今此ノ僕ヲ遣シテ。汝ガ薪水ノ勞ヲ助
ク。此モ亦人ノ子ナリ。善ク之ヲ遇スベシ。
板倉重矩傳家ノ寶弓アリ。常ニ之ヲ坐側ニ
置ク。一日侍童之ヲ空引ス。弓忽チ壞ル。侍童

恐懼罪ヲ請フ。重矩徐ニ言テ曰ク。吾レ此ノ
コヲ愛シ。常ニ不虞ニ備フ。一旦事アルニ方
リ。壞損セバ。必危難ニ瀕スヘシ。今汝引テ之ヲ
折ル。是レ吾レノ幸ナリト。釋シテ問ハズ。
韓魏公ニ人アリ。玉盞ニ雙ヲ獻ス。表裏瑕
ナシ。希世ノ名器タリ。公百金ヲ以テ之ニ謝
シ。留メテ以テ寶玩ト為ス。宴スル毎ニ。特ニ
一桌ヲ設ケ。錦袱ヲ以テ之ヲ覆ヒ。玉盞ヲ其上
ニ置ク。一日將ニ酒ヲ酌ントス。一吏過ツ

テソノ桌ヲ倒シ。玉盞俱ニ碎ク。坐
客皆愕然タリ。吏地ニ伏シテ罪ヲ待ツ。公神色
變セズ。笑テ客ニ謂テ曰ク。凡物ノ成毀多ク。自ラ時
數アリト。乃吏ヲ顧テ曰ク。汝誤ナリ。故之ニスルニ
アラズナシ。罪カ之レアラントテ。敢テ
咎メス。坐客歎服ス。

第十一章 節儉

節儉ハ。家ヲ治ルノ要道。浪費ハ。身ヲ亡ボスノ
凶器ナリ。

節儉トハ。必須ノ程度ニ於テ。其ノ用方ヲ限
制シ。專ラ徒費ノ減少ヲ計ルヲイフ。

節儉ハ美德ナリ。吝嗇ハ禍源ナリ。財ハ積ム
ベク。又散スベシ。若シ夫レ財ノ積ムベキヲ
知テ。之ヲ散シテ利益ヲ興スヲ知ラザレバ。
金錢モ亦瓦礫ニオナシ。

節儉ト吝嗇トハ。相似テ非ナリ。宜クコレヲ
甄別スベシ。

人トシテ。我が生産ヲ治ルコト能ハズ。困窮

其ノ身ニ迫ルトキハ。君父ニ於テハ。忠孝ノ
道ヲ闕キ。親戚故舊ニ對シテハ。意外ノ不義
ヲ行フニ至ルヘシ。獸窮スレバ則テ噬ミ。人窮
スレバ則テ詐ル。故ニ儉素ハ。人倫ニ在テ。最第
一ノ要領ナリ。德行ヲ維持スルノ根柢ナリ。
昔人ノ語ニ。學者宜ク生計ヲ先トスベシ。生
計立ガレバ。則テ或ハ利ヲ貪リ。以テ學ヲ廢
ク。喪フトイヘリ。

儉素ニシテ分ヲ守レバ。放佚奢靡ニ流ル。

コトナク。生産ヲ治メテ勤勉ナレバ。游惰ノ
念起ルコトナシ。

顔回ハ貧處士ナリ。然レドモ二頃ノ田アリ
テ能ク耕シ。五畝ノ宅アリテ能ク其ノ身ヲ
安ンジ。琴書ヲ以テ道ヲ樂シメリ。曾參モ亦
貧生ナレドモ。父ヲ養フニハ。必酒肉ヲ以テ
ストイヘリ。後生ヨロシク儉素ヲ事トシ。我
ガ生業ヲ裕ニシテ。薄命ノ士ヲ救助スベシ。
努々吝嗇ト混同スルコト勿レ。

儉素ハ。子孫繁昌シテ。驕奢ハ。子孫敗滅スベ
シ。其ノ故ハ儉素ナル人ハ。吾ガ享クベキ福
祉ヲハ。享ケ盡サズシテ。子孫ニ傳フ。是ニ於
テカ再興ノ期アリ。驕奢ナルモノハ。子孫ノ
福祉ヲモ。吾ガ一代ニ享ケ盡スカ故ニ。再ビ
興ルノ道理ナシ。倩史傳ヲ摭フルニ外邦ハ
姑ク舍ク。我朝ニ在テ中興以還。戰國ノ世ト
ナリテ。足利尊氏。譎計ヲ構ヘテ。遂ニ天下ヲ
掌握シ。位人臣ヲ極メ。富四海ヲ有ツト雖。賞

罰當ラズ。子孫ニ至ツテ。驕侈益熾シナルガ
故ニ。四方ノ戰鬪熄ム時ナク。竟ニ家系ヲ斷
絶セリ。其ノ後東照大君出テ。世ノ混濁ヲ一
洗シ。天下ヲ掌ノ中ニ治メ。威福心ノ儘ナリ
ト雖。仁慈ヲ本トシ。儉節ヲ守リ。能ク君德ヲ
備メ玉ヒシヨリ。天下ノ上下服從シテ。古來
稀ナル靜謐ヲナシ。永ク子孫ノ繁榮ヲ開キ
給ヘリ。是ニ因テ之ヲ觀レハ。天ノ奢侈ヲ罰
シテ。儉朴ヲ助ケ玉フコト。論ゼズシテ昭ラ

カナリ。

土井大炊正利勝ハ。極メタル節儉者ナリ。或
時居間ニ一尺程ノ唐絲ノ落チタルヲ拾ヒ
トリテ。大野仁兵衛トイフ。近侍ノ者ニ預ケ
ラレタルヲ。次ノ間ニ居タル。少年輩之ヲ見
テ。私語シケルハ。カバカリノ絲屑。何ノ用ニ
カ立ツベキ。大名ニモ似合ザル事カナトゾ
笑ヒケル。而ルニ二三年ヲ過キテ。後利勝仁
兵衛ヲ呼ビ出シ。先年其方ニ預ケ置タル。唐

絲ハ如何トイハレケルニ。是ニ候トテ。腰ノ巾着ヨリ出シテ還シケレハ。其ノ絲ニテ。脇差ノ下ケ緒ノ解ケタル所ヲ結ヒ。サテ家老某ヲ呼ヒテ之ヲ見セ。此ノ絲ヲ仁兵衛ニ預ケタルトキ。外ノ者共ハカハル絲屑何ノ用ニカ立ツベキゾトテ。晒ヒタリシニ。我カ言ヒ付ケタルヲ守リテ。今日マデ大切ニ致セシコト奇特ナリ。三百石取セヨトイヒ渡シ。此絲屑ハ微ナリト雖。彼ノ土ニ於テ百姓ノ桑ヲ

采リ蠶ヲ養ヒソレノ艱苦ヲ經テ製リタルヲ。商人ドモ買ヒ取リテ。遙ナル波濤ヲ越ヘ我カ國ニ渡シ。又長寄ヨリ京大阪ヲ歷テ。此所ニ來ル物ナレハ。其ノ辛苦タル。容易ノコトニアラス。然ルヲ少シナリトテ。塵芥ト同ジク棄ルハ。天道ノ咎メ畏ルベシ。今斯ノ如ク。下ケ緒ノ縫レヲ補ヒタレバ。一尺ノ唐絲ヲ。三百石ニ買ヒタリトモ。敢テ費ニハアラザルナリト。謂レタリトゾ。

第十二章 重身體

人ハ身體ノ健康ヲ以テ基礎トナシ。長壽ヲ以テ第一ノ幸福トス。古書ニ人ノ五福ヲ説キタルニ。壽ヲ以テ其第一ニ置ケリ。健康ハ長壽ノ基本ナリ。人モシ身不健康ニシテ常ニ壯快ナラザレバ何等ニ奮起勉強シテ事ヲ為サント欲ストモ必勝フルコト能ハズ。故ニ苟モ其健康ヲ保タント欲セバ必攝生ノ方ヲ守ルベシ。

故ニ過度ノ飲食ヲナシ。或ハ未熟ノ果實等不消化ノ物ヲ食ヒナドシテ疾病ヲ醸スコトナカレ。人ノ一身ハ頂ヨリ跟ニ至ルマデ皆父母ノ賜モノナレバ必ズ大切ニ保護ヲナシ。高キニ登リ深キニ臨ミ。或ハ朋友ト鬪争シ打チ毆キ等シテ其身體ヲ毀傷スルハ獨リ父母ニ對シテ不孝ナルノミナラス天意ニ背ケルコトナレバ其罪コレヨリ大ナルナシ。謹

と戒ムベキニ非ズヤ。

茲ニ編者嘗テ親シク目撃セシ。奇特ナル童子ノ一話アリ録シテ以テ世ノ兒童ノ規鑑ニ供ス

編者一日所用アリテ大阪府下江戶堀邊ヲ過ギシニ五六歳ノ小兒四五人アリ竹馬ニ乘リ往來ヲ縱横ニ奔リテ遊ベリ此竹馬ノ戯ハ何レノ小兒モ好ミテナスコトナレドモ固ヨリ宜シキ遊ニ非ズモシ往來ノ人ニ

衝突シ或ハ誤リテ躓キ倒ル、時ハ必身ヲ傷クルノ恐アルモノナレバ編者此小兒輩ニ説キ諭シ其戯ヲ止メ他ノ遊ニ換ヘシメント思ヒタリ。

時二十一二歳ノ童子アリ手ニ一兩卷ノ書籍ト。鉛筆トヲ攜ヘ此所へ來リ一人ノ小兒ヲ呼ビ其遊ノ危キコトヲ懇切ニ説諭セリ。此時彼小兒ハ謹シテ其教諭ヲ聞キ居タリ。盖シ此童子ハ此小兒ノ兄ニシテ今學校ヨ

リノ歸路ナリト見ヘタリ。
時ニ童子小兒ニ向ヒ汝能ク我が言ニ從
フ善キ小兒ナリ。ワレ今日モ教師ニヨキ説
話ヲ聽キ來レリ。汝共ニ家ニ歸ルベシ。我又
汝ニ其説話ヲ傳ヘシメサント告ゲタリ。
小兒欣然トシテ喜ブ色アリ遂ニ童子ニ隨ヒ
去レリ。他ノ兒輩モ之ヲ傍聽シ居タリシガ。
皆其竹馬ヲ抛チ手ヲ携ヘテ相共ニ他ヘ奔
リ去レリ。

編者暫ク其傍ニ立チ。此童子ノ舉動ヲ見ル
ニ。其容貌端正ニシテ。其言語温順能ク諄々
トシテ。其小兒ヲ導キシニ。小兒モ亦欣然ト
シテ其ノ命ニ從フ自ラ友悌ノ情人ヲ感動
セシムルモノアリ。遂ニ他ノ兒輩ヲシテ共
ニ其危險ヲ脱セシム

今ヤ世道漸ク隆ク。教育隨ツテ開ケタリ。此
童子ノ如キハ。必内ニ賢父母アリ。外ニ良師
友アリテ。能ク之ヲ薰陶スル者ナリ。然ラズ

R1191

ンバ何ゾ能ク斯ノ如キ。奇特ナル童子ヲ。養
ヒ成スコトヲ得ンヤ。是皆開明德澤ノ致ス
所ナリ。

世ノ兒輩能ク此童子ヲ規鑑トナシ。此盛世
ノ恩ヲ空シウスルコト勿レ。

脩身小學讀本卷之八終

明治十五年五月六日版權免許
同年同月 出版
同年十一月十一日再版御届
同年十二月 出版

纂述人 福井縣士 池田 觀
定價金拾二錢

出版人 岐阜縣平民 山岸 彌平
大坂東區北濱貳丁目
五十五番地寄留

發兌人 東 富田 彦次郎
堂
大坂東區北濱貳丁目
五十五番地寄留

東京京橋區桶町
壹番地



池田觀纂述

修身小學讀本

中等科第四級
卷九

K110.1
7a
9